

**乳幼児の栄養状態の簡易な評価手法の開発：
文献的研究並びに既存データと市区町村調査の分析に基づく評価ツール（案）
原案の作成**

研究分担者 佐々木溪円（実践女子大学 生活科学部 食生活科学科）
多田由紀（東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科）
和田安代（国立保健医療科学院 生涯健康研究部）
小林知未（武庫川女子大学 食物栄養科学部 食物栄養学科）

研究要旨

〔目的〕乳幼児の体格と食生活等との関連性について、文献や既存データ（乳幼児栄養調査、乳幼児健康診査（以下健診）等）の分析、市区町村を対象とした調査により検討し、評価ツール（案）の原案を作成すること。

〔方法〕NutriSTEPのToddler版とPreschooler版を参考として、本研究班が令和3～4年度に行った文献的研究、既存データの分析結果、市区町村調査結果を踏まえて、研究分担者4名による協議を行った。対象年齢は、1歳6か月以上3歳未満と3歳以上6歳未満の2区分とした。他の研究分担者に協議結果を示し、得られた意見をもとに修正を行った。

〔結果〕食品群別の摂取頻度7項目（3歳以上は8項目）、望ましくない食品の摂取頻度3項目、食生活8項目（3歳以上は6項目）、食生活以外の生活習慣1項目（3歳以上は2項目）、保護者による体重の認識1項目、保護者の育児状況1項目、経済状況1項目の質問項目を作成した。

〔結論〕各対象年齢について、食品群別の摂取頻度、食生活を含む生活習慣、経済状況などを22の質問項目に集約した。

A. 研究目的

乳幼児期の成長・発達は、栄養摂取状況や生活習慣によって左右される。このため、海外では、乳幼児を対象とした栄養状態の簡易的な評価手法として、Nutrition Screening Tool for Every Preschooler (NutriSTEP)¹⁾が開発されている。一方、我が国では、乳幼児の身体発育を評価するための栄養状態の評価手法に関する検討が不足している。以上の背景から、本研究班では、我が国の特徴を踏まえて、養育者やその

支援者が乳幼児の栄養状態を簡易に評価できるツール（以下、評価ツール（案））の開発を目指している。

本研究班では、令和3、4年度に文献的研究、乳幼児栄養調査と乳幼児健診、新型コロナウイルス感染症の感染拡大後の生活変化に関する調査（COVID-19調査）の分析、市区町村の乳幼児健診における乳幼児の栄養状態の評価の実態調査を行い、評価ツール（案）の質問項目を検討してきた。これらの結果をもとに、1歳6か月以上3歳未満と

3 歳以上 6 歳未満の幼児それぞれに対する評価ツール（案）の項目を作成した。これらの評価ツール（案）は、学識経験者等による評価と保育・保健従事者や保護者のインタビューを行い改善する計画であるが、本報告書ではそれらの改善前の項目を作成した意図を示す。

B. 方法

NutriSTEP の Toddler 版と Preschooler 版を参考として、本研究班が令和 3～4 年度に行った文献的研究、乳幼児栄養調査と乳幼児健診、COVID-19 調査の分析結果、市区町村調査結果を踏まえて、研究分担者 4 名による協議を行った。4 名の専門領域は、小児保健、小児栄養、栄養教育、公衆栄養であり、全員が管理栄養士免許を有している。対象年齢は、1 歳 6 か月以上 3 歳未満と 3 歳以上 6 歳未満の 2 区分とした。なお、本報告では各年齢区分について前者を A、後者を B、各設問番号を A あるいは B に続く番号で表記した。協議結果は、研究班会議で他の研究分担者に示し、得られた意見をもとに修正を行った。

C. 結果

表 1 に 1 歳 6 か月以上 3 歳未満の幼児に対する評価ツール（案）、表 2 に 3 歳以上 6 歳未満の幼児に対する評価ツール（案）を示す。両者ともに 22 項目で構成し、リッカート尺度法による選択肢を設けた。評価ツール（案）の作成を開始した時点では、NutriSTEP では各選択肢に評点を付していた。そこで、両評価ツール（案）にも、各選択肢に評点を付した。評点は、最も望ましい状態を 0 点とし、点数が高いほど望ましくない状態を表すこととした。

次に、各項目を設定した意図と経緯を示す。

A-1、B-1) 穀類

乳幼児栄養調査では「穀類（ごはん、パンなど）」としており、NutriSTEP ではパスタが例示されている。我が国ではうどんやパスタを昼ご飯にすることは少なくなく、離乳食でも「うどんメニュー」は多いなど、幼児の食事としてうどん等の麺類は一般的である。また、わが国でも、シリアルを利用することは想定される。そこで、「麺類、シリアル」を加えた。麺類を加えると、インスタントラーメンが含まれる可能性があることに留意する必要がある。NutriSTEP の点数は「0：1 日に 5 回以上、1：1 日に 4～5 回、2：1 日に 2～3 回、4：1 日に 2 回未満」である。しかし、例えば、最も望ましいことを意味する 0 点が 1 日に 5 回以上の摂取という評点は、わが国の食文化や現状に適さない。そこで、わが国の食生活や食育を反映させた評点に変更した。

A-2、B-2) 牛乳・乳製品

NutriSTEP では豆乳などが含まれているが、大豆・大豆製品は別項目とする。また、食品の形態を考え、「食べたり飲んだり」と記載する。表記として「摂る」は乳幼児栄養調査でも使われていないため、使用しないことにした。3 歳未満対象の質問項目では、授乳に関する既述を除いた。NutriSTEP の点数は「0：1 日に 4 回以上、1：1 日に 3 回、2：1 日に 2 回、4：1 日に 1 回未満」であるが、わが国の食生活や食育を反映させた評点に変更した。

A-3) 野菜・果物

NutriSTEP では果汁 100% 飲料を果物に

計上するが、その解説では果汁 100%飲料を含むすべてのフルーツジュースは糖分が多く繊維質が少ないこと、口渇時は水を用いると記述されている。しかし、本質問票では、果汁 100%飲料を果物に計上すると、栄養素を飲料で摂取しても良いとする考えに繋がりがねないと考えた。また、食育の観点からは、子どもは飲料ではなく野菜や果物を摂取して、それらに含まれる栄養素を摂ることが望ましいという観点から、果汁 100%飲料を果物として計上しないこととした。

選択肢として「まったく食べない」より、「ほとんど」のほうが現実的で受け入れやすいと考えた。NutriSTEP の点数は「0:1日に5回以上、1:1日に3~4回、2:1日に2回、3:1日に1回、4:ほとんど食べない」であるが、わが国の食生活や食育を反映させた評点に変更した。また、一日の3食として野菜、おやつとして果物を摂取し4回摂取することは可能であるが、NutriSTEP で設定された「1日に5回」は困難な家庭が多いと考えた。

B-3) 野菜

NutriSTEP では「果物」、「野菜」の順に設定されているが、乳幼児栄養調査と同じ順にした。選択肢は牛乳と同様とした。

B-4) 果物

乳幼児栄養調査の結果では、1日2回以上の摂取は1割、毎日1回の摂取が3割であり、両者を合計すると約4割強である。これらの結果を考えると、1日2回摂取を望ましいとする基準は閾値として高いという意見もあった。一方で、健康日本21（第

二次）の最終評価で果物摂取量が目標に達していない現状もあり、幼児期から果物を摂取する食生活を確立したいと考え、2回以上を望ましいとした。なお、NutriSTEP では「0:1日に3回以上、1:1日に3回、2:1日に2回、3:1日に1回、4:ほとんど食べない」と、望ましいとする基準は本設問よりも高く設定されている。

A-4~7、B-5~8) 魚介類、肉類、卵、大豆・大豆製品

NutriSTEP では一つの質問項目で主菜を聞いているが、我が国の食文化では欧米諸国よりも大豆・大豆製品、魚の摂取が多い。また、主菜を分けて聴取することにより、食生活の指導に寄与する情報が得られる。そこで、各食品群に分けて聴取し、その点数を平均化して計上することにした。質問項目の順序は、乳幼児栄養調査と同じく魚を冒頭に設定した。NutriSTEP では Alternative として「他の豆・ナッツ」があるが、これらは乳幼児栄養調査に準じて含めないことにした。また、選択肢は乳幼児栄養調査に合わせた。点数は、週に1回未満の摂取はほとんど食べないことになるため4点、週に6日摂取は1点がそれぞれ妥当と考え、牛乳やファストフードと同様に「0・1・2・4」の4段階とした。

A-8、B-9) ファストフード

NutriSTEP ではピザやホットドッグ等が例示されているが、我が国の食生活を考えて削除した。NutriSTEP の選択肢は週あたりの日数としているが、他の設問にあわせて回数で表記した。また、NutriSTEP (Preschooler 版) では「ファストフードを

食べていますか」とされており注釈がない。本質問票では、3歳未満と同じように3歳以上対象の場合でも、ファストフードの例と外食・テイクアウトという注釈を加えて回答しやすい工夫を図った。

A-9・10、B-10・11) **菓子、甘味飲料**

菓子の摂取状況は NutriSTEP に設定されていない。しかし、その摂取状況はこどもの栄養状態と関連するため、項目として必要と考えた。設問文における菓子や飲料の説明は愛知県の市町村共通問診項目を参考に作成し、乳幼児栄養調査に記載されている菓子パンを加えた。また、乳幼児栄養調査では、甘味飲料に果汁飲料を含めている。しかし、本質問票では、果汁 100%飲料は「積極的に摂取を減らすべき」である他の甘味飲料とは異なると考え、果汁 100%飲料を甘味飲料に含めないものとした。さらに、点数制は、主菜に準じて、菓子と甘味飲料の両者を平均して計上することとした。また、NutriSTEP (Preschooler 版) には本項目が設定されていないが、食生活と栄養状態の関連を考えて、3歳未満対象の質問項目と同じ内容を3歳以上にも設定した。

A-11、B-12) **食事の問題**

国の通知(「乳幼児に対する健康診査について」の一部改正について(子母発 0322 第1号))では、1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の問診項目の例示として「偏食や小食など食事について心配なことがありますか」が示されている。また、NutriSTEP の設問を日本語訳にすると、「こどもに自分で食べる量を決めさせていますか。」あるいは「こどもに自分で食べる量を取り分けさ

せていますか。」になると考えた。また、NutriSTEP の選択肢では、0点が「いつも自分で決めさせている」であり、NutriSTEP の設問は、幼児期に空腹や満腹を学ぶことが望ましいとしている。乳幼児栄養調査で得られている保護者の悩みや当研究班が行った同調査結果の解析と照らし合わせると、「取り分けている」という表現よりも偏食、過食、小食とする表記が妥当と考えた。

A-12、B-13) **咀嚼・嚥下**

乳幼児栄養調査では、「あなたは現在、お子さんの食事で困っていることがありますか」としている。一方、NutriSTEP の内容を日本語に訳すると「食事の際、噛めない、飲み込めない、むせる、のどに詰まるなどの問題があるか」となり、こどもの摂食機能に焦点をあてている。摂食機能は食事に関する保護者の悩みの上位にあがっており、近年は摂食機能の発達支援の必要性が指摘されている。そこで、摂食機能に関する例示をして、選択肢は他の項目と同様に頻度として回答することとした。

A-13、B-14) **食事の自立**

こどもの発達を把握できるように、設問文を「可能かどうか」を聞く内容とした。また、4点の日本語表記は、こどもの標準的な発達から明らかに遅れているケースを反映することを考えて、「ほとんどできない」ではなく「全くできない」とした。

A-14) **飲料の摂取方法**

この質問票の対象年齢は、標準的な発達であれば離乳が完了している時期である。

そこで、本項目は摂食機能の発達過程として「コップ飲み」ができていること、摂取後の歯科衛生の課題に焦点をあてた。なお、愛知県の共通問診項目では就寝時の哺乳瓶の使用や母乳の利用に焦点をあてている。しかし、NutriSTEP (Toddler 版) では哺乳瓶の使用を就寝時に限定してない。また、他の設問で母乳の利用について確認しているため、この項目では哺乳瓶の使用のみに焦点をあて、就寝時に限定せず発達過程を把握することにした。

A-15・16、B-15・16) **食事時の空腹、食事回数**

摂取食物のバランスや生活リズムの確立を考えると、こどもには食事の時に空腹を感じていることが望ましい。そこで、NutriSTEP の問診項目を、愛知県共通問診項目を参考にして改変した。さらに、エネルギーのある固形物を回答の対象に想定し、夏場などで頻繁に水分補給をする回数を含めないものとした。このような意図が反映されるように、設問文として「召し上がりますか」とする案も検討した。しかし、この設問だけ敬語になることは違和感があること、食事とおやつを「合わせて」と計上することが明確になることが望ましいことから、「合わせて何回食べますか」とした。NutriSTEP では選択肢の得点が、1 点が 1 日 3～4 回、0 点が 5～6 回、2 点が 7 回以上となっていたが、我が国の食生活に合わせて選択肢の回数を変更した。

A-17、B-16) **ながら食べ**

NutriSTEP では「テレビ」とされているが、近年のスマートフォンやタブレットの

利用状況を考慮して「テレビや動画等」とすることが提案された。この案には、回答者が「等」には何が含まれるのか理解できるようにした方が良いという意見も挙げられた。その後の再検討の過程では、「本」や「おもちゃ」と並記することを考えると、「動画」ではなく媒体名を記載することが適切ではないかと考えられた。また、一般的にはメディア媒体として用いられるものは、テレビ、タブレット、スマートフォンが多いと考えられるが、今後、新しい媒体が用いられる可能性もある。そこで、本項目には「等」はつけるが、育児の現状としては「等」に含まれるものはないと考えた。

A-18、B-17) **共食**

共食は NutriSTEP にない項目だが、乳幼児栄養調査と COVID-19 調査の分析結果と保健指導の視点を考慮して設定した。設問文は、乳幼児栄養調査の項目を参考にして作成した。同調査では朝食と夕食について回答を求めている。しかし、朝食は共食の有無よりも欠食の有無が重要と考え、本設問では夕食に焦点をあてた。選択肢は「ながら食べ」で設定した内容と同様とした。

B-18) **身体活動**

NutriSTEP と乳幼児栄養調査には、身体活動に関する設問がある。そこで、同調査と同じ文言とし、選択肢の点数は食行動の問題を参考にして設定した。

A-19、B-19) **スクリーンタイム**

NutriSTEP では、「テレビを見たり、パソコンを使ったり、ビデオゲームをしたりしている」となっている。国の通知（子母発

0322 第1号)では、「お子さんはテレビや動画、タブレット、スマートフォン等を1日2時間以上みていますか。」が例示されている。この文末を、愛知県の市町村共通問診と同じ文末に改変した。また、設問文の内容を動画以外も対象であることを明示するように修正する提案があった。再検討の過程では、テレビという語句には媒体と内容の双方の意味が含まれるが、「動画」は内容でありテレビ、タブレット、スマートフォンと並列にならないと考え、媒体としてテレビ、タブレット、スマートフォン等と記載することにした。選択肢には日本語として「台」を加えることが適切と考えた。また、こどものスクリーンタイムは、年齢が高くなると長くなることが知られている。そこで、対象年齢を考慮して、3歳以上では選択肢の時間数を年齢に合わせて修正した。

A-20、B-20) **安心感**

NutriSTEP の問診が意図することと類似している、健やか親子21(第2次)の指標で用いられている問診「お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか。」を利用することとした。

A-21、B-21) **体重に関する認識**

乳幼児栄養調査では「お子さんは太っていると思いますか。やせていると思いますか。」に対して、「太っている」から「やせている」までの5段階リッカート尺度法で回答を求めている。乳幼児栄養調査の分析でこどもの体格と保護者の認識が一致している群を設定したが、この群には「体格のデータを確認している」人と「体格のデータを確認していないが、子どもの様子のみで正確

に認識している人」が含まれる。この設問では、「適正体重である」と認識している者を望ましい状態とした。一方、こどもの体格を評価できていない保護者を反映する選択肢として、望ましくない状態として「よくわからない」を設定した。

A-22、B-22) **経済状況**

NutriSTEP の問診は経済状態として食費に焦点を充てている。一方、経済状況に関する設問は回答する際に躊躇することが想定される。そこで、国の通知(子母発 0322 第1号)と過去の厚生労働省研究班の推奨問診項目³⁾で示されている問診項目「現在の暮らしの経済的状況を総合的にみて、どう感じていますか。」を利用することとした。

D. 考察

NutriSTEP では、食品群別の摂取頻度、食習慣、生活習慣、経済状況などが質問項目として設定されている。本研究班で昨年度までに行った乳幼児栄養調査と乳幼児健診、COVID-19 調査の分析では、全ての結果が一致することはなかったが、各食品群の摂取頻度と幼児の体格との間に関連がみられた²⁾。また、NutriSTEP で設定されていない甘味飲料や菓子類の摂取状況が、乳幼児健診と COVID-19 調査の分析において体格指標との関連がみられた。市区町村調査では、乳幼児健康診査に従事している管理栄養士等は、食品群別の摂取頻度が幼児の栄養状態と関連があると考えていた。一方、欧米諸国と我が国の食文化は異なっており、我が国では魚介類の摂取や大豆・大豆製品の利用が多い。これらの結果と食文化を考慮して、評価ツール(案)では各食品群別の摂取頻度を設定し、NutriSTEP では一つの

質問項目で把握していた主菜を複数の質問項目で把握することとした。この設定により、評価ツール（案）を用いる保健医療従事者が保健指導に必要な基礎情報が得られると考える。

乳幼児栄養調査と COVID-19 調査解析では、食品群別の摂取状況だけでなく、食事の困りごと、生活習慣等の項目に体格区分との関連が認められた²⁾。評価ツール（案）には、これらの結果を反映して各質問項目を設定した。一方、NutriSTEP で設定されている項目のうちサプリメントの使用は、本研究班が採用した乳幼児栄養調査や乳幼児健診、COVID-19 調査の項目やほとんどの市区町村の問診票に含まれなかった。欧米諸国と我が国では、小児期におけるサプリメントの使用について社会的背景が異なる可能性がある。評価ツール（案）では質問項目にサプリメントの使用を設定しなかったが、今後、食生活の変化に応じて項目を再検討する必要がある。また、NutriSTEP では児が摂食量を管理できるようにすることに言及していたが、摂食量の過不足と考えると過食や小食が近似した表現の一つと考えた。

生活習慣に関する身体活動、スクリーンタイムに関する項目は、乳幼児栄養調査と乳幼児健診、COVID-19 調査の分析では栄養状態との関連はみられず、睡眠および歯科口腔衛生と栄養状態との関連には一致した結果は得られなかった²⁾。しかし、これらの項目は、令和 3 年度に実施した文献レビュー⁴⁾において体格指標との関連を示す報告もあること、保健指導に必要な情報であることから、身体活動やスクリーンタイムを評価ツール（案）の項目とした。これらの項目の必要性については、学識経験者等による評価等によって検討することとした。

ヘルスプロモーションでは、健康の決定要因である社会経済的要因の管理が重要である。NutriSTEP では、経済状況について食費に関する設問を用いている。一方、乳幼児栄養調査の分析では、「総合的な暮らしのゆとり」が体格指標との関連を示した²⁾。我が国では、健やか親子 21（第 2 次）の評価指標として主観的経済状況を問う設問が乳幼児健診で用いられている。また、市区町村調査では、この主観的経済状況を問う設問を活用しているとする意見がみられた。これらの結果と現状に基づき、評価ツール（案）では健やか親子 21（第 2 次）の評価指標を用いることとした。

NutriSTEP では、養育者の児に対する成長に関する安心感を確認する項目がある。しかし、市区町村調査では、問診票でこの項目を確認できる自治体は少なかった。我が国の乳幼児健康診査では保健師が個別に面談することが多いため、この面談において保護者の安心感を確認している可能性が考えられる。そこで、評価ツール（案）では健やか親子 21（第 2 次）の評価指標で用いられている項目を参考として項目を設定した。

以上の評価ツール（案）の項目は、本研究班が行った文献的研究と乳幼、児栄養調査、乳幼児健診、COVID-19 調査の分析結果、市区町村調査の結果を基にして研究班の小児保健や小児栄養を専門とする班員が作成したものである。このため、保育学や疫学等の関連領域からの視点や、現場で従事する専門職や保護者の意見をもとに改善する必要がある。

E. 結論

文献的研究や乳幼児栄養調査、乳幼児健診、COVID-19 調査と市区町村調査の分析結果を基にして、幼児を対象とした評価ツ

ール（案）を作成した。対象年齢を2区分として食品群別の摂取頻度、食生活を含む生活習慣、経済状況などを22の質問項目に集約した。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

1. Randall Simpson, J.A.; Keller, H.H.; Rysdale, L.A.; Beyers, J.E. Nutrition Screening Tool for Every Preschooler (NutriSTEP): validation and test-retest reliability of a parent-administered questionnaire assessing nutrition risk of preschoolers. Eur J Clin Nutr 2008; 62: 770-780.
2. 佐々木溪円、多田由紀、和田安代、小林知未、他. テーマ1：乳幼児の栄養状態の簡易な評価手法の開発. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）乳幼児の発育・発達、栄養状態の簡易な評価手法の検討に関する研究. 令和4年度総括・分担研究報告書. P.3-16.
3. 山崎嘉久、他. 標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～平成26年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）乳幼児健康診査

の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究. 2015. P.145.

4. 多田由紀、佐々木溪円、和田安代、小林知未. 乳幼児の栄養状態の簡易な評価手法の開発：文献レビューによる検討. 厚生労働行政推進調査事業費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）乳幼児の発育・発達、栄養状態の簡易な評価手法の検討に関する研究. 令和3年度総括・分担研究報告書. 2022; 31-61.

表 1. 日本版栄養状態評価ツール（案）1 歳 6 か月以上 3 歳未満児用（A）

1) ～22) について、お子様の状況について最もあてはまる選択肢を一つだけ選んでください。

A-1) **穀類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で穀類（ごはん、パン、麺類、シリアル等）を食べていますか。
 1：1 日に 5 回以上、0：1 日に 3～4 回、2：1 日に 2 回、3：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない

A-2) **牛乳・乳製品** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で牛乳・乳製品（粉ミルク、チーズ、ヨーグルト等）を食べたり飲んだりしていますか（授乳している場合は母乳も含みます）。
 0：1 日に 3 回以上、1：1 日に 2 回、2：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない（飲まない）

A-3) **野菜・果物** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で野菜や果物を食べていますか。
 0：1 日に 3 回以上、2：1 日に 2 回、3：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない

A-4) **魚介類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で魚を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

A-5) **肉類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で肉類を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

A-6) **卵** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で卵を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

A-7) **大豆・大豆製品** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で大豆や大豆製品を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

A-8) **ファストフード** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度でファストフード（ハンバーガー、フライドポテト、チキンナゲット等）を外食もしくはテイクアウトで食べていますか。
 4：週に 3 回以上、2：週に 2 回、1：週に 1 回以下、0：ほとんど食べない

A-9) **菓子** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で甘いおやつ（砂糖を含むアメ、チョコレート、クッキー、菓子パン等）を食べていますか。
 4：1 日に 5 回以上、3：1 日に 3～4 回、2：1 日に 2 回、1：1 日に 1 回、0：ほとんど食べない

(表 1 続き)

A-10)	甘味飲料	あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で甘い飲み物（乳酸飲料、ジュース(果汁 100%の飲料を除く)、スポーツドリンク等)を飲んでいますか。 4：1日に5回以上、3：1日に3～4回、2：1日に2回、1：1日に1回、0：ほとんど飲まない
A-11)	食事の問題	あなたは、お子さんの食事について偏食、食べすぎ、小食で困ることがありますか。 4：ほとんどの食事で困る、2：時々ある、1：まれにある、0：ほとんどない
A-12)	咀嚼・嚥下	あなたは、お子さんの食事について噛めない、飲み込めない、むせる等で困ることがありますか。 4：ほとんどの食事で困る、2：時々ある、1：まれにある、0：ほとんどない
A-13)	食事の自立	あなたのお子さんは、食事やおやつを自分で食べられますか。 0：いつでもできる、1：ほとんどできる、2：時々できる、3：まれにできる、4：全くできない
A-14)	飲料の摂取方法	あなたのお子さんは飲料を飲むときに、どのくらいの頻度で哺乳瓶を使いますか。 4：いつも、3：たいてい、2：時々、1：まれに、0：全くない
A-15)	食事時の空腹	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度で食事の時に空腹を空かせていますか。 0：いつも、1：ほとんどの場合、2：時々、3：まれに、4：ほとんどない
A-16)	食事回数	あなたのお子さんは普段、1日に食事とおやつを合わせて何回食べますか。 4：1日1回以下、3：1日2回、1：1日3回、0：1日4～5回、2：1日6回以上
A-17)	ながら食べ	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度でテレビやタブレット、スマートフォン等を見たり、本を読んでもらったり、おもちゃで遊んだりしながら、食事やおやつを食べますか。 4：いつも、3：ほとんどの場合、2：時々、1：まれに、0：全くしない
A-18)	共食	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度で夕食を一人で食べることがありますか。 4：いつも、3：ほとんどの場合、2：時々、1：まれに、0：まったくしない
A-19)	スクリーンタイム	あなたのお子さんは普段、テレビやタブレット、スマートフォン等を1日にどのくらい見ていますか。 4：1日4時間以上、3：1日3時間台、2：1日2時間台、1：1日1時間台、0：1日1時間未満

(表 1. 続き)

A-20)	安心感	あなたはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか。 0：はい、4：いいえ、2：何ともいえない
A-21)	体重に関する認識	あなたは、お子さんの体重についてどのように認識していますか。 3：太っている、0：適正体重である、3：やせている、4：よくわからない
A-22)	経済状況	あなたは、現在の暮らしの経済的状況を総合的にみて、どう感じていますか。 0：大変ゆとりがある、0：ややゆとりがある、0：普通、2：やや苦しい、4：大変苦しい

表 2. 日本版栄養状態評価ツール（案）3 歳以上 6 歳未満児用（B）

1) ～22) について、お子様の状況について最もあてはまる選択肢を一つだけ選んでください。

B-1) **穀類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で穀類（ごはん、パン、麺類、シリアル等）を食べていますか。
 1：1 日に 5 回以上、0：1 日に 3～4 回、2：1 日に 2 回、3：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない

B-2) **牛乳・乳製品** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で牛乳・乳製品（粉ミルク、チーズ、ヨーグルト等）を食べたり飲んだりしていますか。
 0：1 日に 3 回以上、1：1 日に 2 回、2：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない（飲まない）

B-3) **野菜** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で野菜を食べていますか。
 0：1 日に 3 回以上、1：1 日に 2 回、2：1 日に 1 回、4：全く食べない

B-4) **果物** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で果物を食べていますか。
 0：1 日に 2 回以上、2：1 日に 1 回、4：ほとんど食べない

B-5) **魚介類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で魚を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

B-6) **肉類** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で肉類を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

B-7) **卵** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で卵を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

B-8) **大豆・大豆製品** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で大豆や大豆製品を食べていますか。
 0：毎日 1 回以上、1：週に 4～6 日、2：週に 1～3 日、4：週に 1 回未満

B-9) **ファストフード** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度でファストフード（ハンバーガー、フライドポテト、チキンナゲット等）を外食もしくはテイクアウトで食べていますか。
 4：週に 4 回以上、3：週に 2～3 回、2：週に 1 回、1：月に数回、0：月に 1 回以下

B-10) **菓子** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で甘いおやつ（砂糖を含むアメ、チョコレート、クッキー、菓子パン等）を食べていますか。
 4：1 日に 5 回以上、3：1 日に 3～4 回、2：1 日に 2 回、1：1 日に 1 回、0：ほとんど食べない

B-11) **甘味飲料** あなたのお子さんは普段、どのくらいの頻度で甘い飲み物（乳酸飲料、ジュース(果汁 100%の飲料を除く)、スポーツドリンク等）を飲んでいますか。
 4：1 日に 5 回以上、3：1 日に 3～4 回、2：1 日に 2 回、1：1 日に 1 回、0：ほとんど飲まない

(表 2. 続き)

B-12)	食事の問題	あなたは、お子さんの食事について偏食、食べすぎ、小食で困ることがありますか。
4：ほとんどの食事で困る、2：時々ある、1：まれにある、0：ほとんどない		
B-13)	咀嚼・嚥下	あなたは、お子さんの食事について噛めない、飲み込めない、むせる等で困ることがありますか。
4：ほとんどの食事で困る、2：時々ある、1：まれにある、0：ほとんどない		
B-14)	食事時の空腹	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度で食事の時に空腹を空かせていますか。
0：いつも、1：ほとんどの場合、2：時々、3：まれに、4：ほとんどない		
B-15)	食事回数	あなたのお子さんは普段、1日に食事とおやつを合わせて何回食べますか。
4：1日1回以下、3：1日2回、1：1日3回、0：1日4～5回、2：1日6回以上		
B-16)	ながら食べ	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度でテレビやタブレット、スマートフォン等を見ながら、食事を食べますか。
4：いつも、3：ほとんどの場合、2：時々、1：まれに、0：まったくしない		
B-17)	共食	あなたのお子さんは、どのくらいの頻度で夕食を一人で食べることがありますか。
4：いつも、3：ほとんどの場合、2：時々、1：まれに、0：まったくしない		
B-18)	身体活動	あなたのお子さんは、保育所等の活動も含め、どのくらい運動（外遊びも含む）をしていますか。
0：1週間に5日より多くしている、1：1週間に3～4日している、2：1週間に1～2日している、4：していない		
B-19)	スクリーンタイム	あなたのお子さんは普段、テレビやタブレット、スマートフォン等を1日にどのくらい見ていますか。
4：1日5時間以上、3：1日4時間台、2：1日3時間台、1：1日2時間台、0：1日1時間以下		
B-20)	安心感	あなたはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか。
0：はい、4：いいえ、2：何ともいえない		
B-21)	体重に関する認識	あなたは、お子さんの体重についてどのように認識していますか。
3：太っている、0：適正体重である、3：やせている、4：よくわからない		
B-22)	経済状況	あなたは、現在の暮らしの経済的状況を総合的にみて、どう感じていますか。
0：大変ゆとりがある、0：ややゆとりがある、0：普通、2：やや苦しい、4：大変苦しい		